

# 令和6年度 静教研 小規模校研究部

## 研究のまとめ

### 1 静教研夏季研究大会

(1) 実践報告：函南町立丹那小学校

(2) 実践報告：静岡市立両河内小中学校

### 2 静教研研究冊子 富士宮市立稲子小学校

### 3 東海北陸福井大会参加報告

### 4 全国へき地連盟HP寄稿

(1) 「山紫水明」 静岡市立玉川小中学校

(2) 「事務室」 川根本町立光の森学園

令和6年度静岡県教育研究会小規模校教育研究部 夏季研究大会

**コミュニティ・スクールの機能を生かし、  
主体的に取り組む子供の育成**

静岡県函南町立丹那小学校 教諭 下山 祐二

# 1 学校・地域の概要

## (1) 地域の概要



## (2) 学校の概要

- ・ 全校児童数 50名（過去には300名以上在籍）
- ・ 今年度創立151年目を迎える伝統校
- ・ 敷地内に幼稚園を併設し、共にする活動も多い
- ・ 平成29年度よりコミュニティスクールとして「地域と共にある学校づくり」を推進中
- ・ 令和5年度より小規模特認校として町内他学区児童の受け入れ開始（現在4名在籍中）
- ・ 富士山を眺めることができる別荘地を抱え、都会からの移住者のご子息が40%弱在籍
- ・ 夏休み期間を利用し、海外から体験入学児童あり

### (3) 児童の実態

- よさ
- ・ 人が困っているときは、進んで助けている
  - ・ 地域の行事に参加している・他者を認める
  - ・ 将来の夢や目標をもっている・素直・挑戦心
  - ・ 自己肯定感が高い・学年に関係なく遊ぶ

- 課題
- ・ 人間関係に息苦しさを感じている子供もいる
  - ・ 課題発見力・課題解決力
  - ・ 先を見通して計画的に行うこと・主体性
  - ・ 自己表現・時と場に応じた言葉遣い
  - ・ より高みを目指して発展させていくこと

## 2 研究の概要

### (1) 研究仮説

- I オール丹那の共有体験を通して子供たちが他者と関わり、所属感や自己有用感を味わうことができれば、地域への誇りと愛する気持ちが育成されるのではないか。
  
- II 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進するとともに、人間関係が整えば、子供は主体性が育つのではないか。



# コミュニティ・スクールの機能を生かした主体性の育成

## コミュニティ・スクール（オール丹那の共有体験）

◎ミッション（玄岳遠足・運動会・自給自足DAY・ありがとうの会）

➔ **居場所(安心・安全・所属感・自己有用感・達成感・自尊感情)**

### 授業づくり

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ・ 主体的・対話的な学び
  - ・ 単元内自由進度学習
  - ・ 地域探究学習
  - ・ 自分みがき

### 学級づくり

- ・ 主体的な委員会活動・係活動
- ・ 心の健康観察・縦割り活動
- ・ ソーシャルスキルトレーニング（SST）

主体性  
協働性

ICTの  
活用

**主体的協働的に学ぶ力・地域への誇りと愛着**

## 学校運営協議会（CSオール丹那会議）について

- ・ 年に4回、教育活動についての話し合い
- ・ 教職員を含め15名程度の組織＋地域推進委員  
（区長・住職・農協青年部・観光協会・P会長等）
- ・ 玄岳遠足、運動会、自給自足DAYへの協力と運営
- ・ 入学式等の儀式的行事へ参加



### 3 具体的な取組 (仮説 I)

## オール丹那の共有体験

#### ア 四つのミッション

- (ア) 玄岳遠足
- (イ) オール丹那運動会
- (ウ) 自給自足DAY
- (エ) ありがとうの会

#### イ その他の共有体験

- (ア) 全校あそび
- (イ) 全校SST
- (ウ) ランチルーム給食



# ア 四つのミッション

丹那の人・もの・ことを生かした四つのそれぞれのミッションにおいて、子供に付けたい力や重点を全教職員で話し合い、CS会議で共有し決定していきます。

付けたい力やできるようにしたいこと	ミッション			
	玄岳遠足	運動会	自給自足DAY	ありがとうの会
主体性			◎	○
協働する力		○	○	
計画・企画力			○	◎高
挑戦する力		◎		
丹那を学ぶ	◎		○	
表現力				◎低
探究する力			○	
先を見通す力			○	
他者のために考え実行する力	○			○
課題設定			○	
互いのよさを認め合う				○
自己肯定感			振り返り→自分の頑張りを自分で認める→教	
たくましさ		○		

# (ア) 玄岳遠足 (70年間続く行事)

①ねらい

◎丹那のよさ、魅力を知る

- ・みんなで所属感・達成感・連帯感を味わう

②内容

- ・保護者、地域住民の有志も参加し、縦割りで助け合い励まし合って登っていく
- ・児童会や縦割り班でスローガンづくり
- ・山頂で参加者全員で校歌斉唱・クイズ大会
- ・事前の下草刈り (保護者地域ボランティア)
- ・ジオガイドから土地の成り立ちの説明





# 玄岳遠足スローガン

ぜんか <sup>ぜい</sup> <sup>りょく</sup> <sup>ほけま</sup> <sup>3年ぶ</sup>  
で めざせ! <sup>協力</sup>  
 <sup>みんな</sup> <sup>ちょう</sup> <sup>じょう</sup> <sup>笑顔いっぱい</sup> <sup>助け合う</sup> <sup>楽しむ</sup>  
頂上 <sup>た</sup> <sup>ん</sup> <sup>よ</sup>  
で 笑おう 丹那

太陽 

木女 

スマイル 

ゴールド  
★スター 





## 参加者全員で記念写真

360度パノラマビュー  
でのお弁当  
東に相模湾、西に駿  
河湾、北に富士山を  
眺めながら







# (イ) オール丹那運動会

①ねらい

◎挑戦する力 協働する力

- ・ 所属感・達成感・連帯感を味わう

②内容

- ・ 参加者全員によるラジオ体操
- ・ 個人走（一人一人の意気込み発表）
- ・ CS種目（子供対大人の綱引き・棒引き、丹那音頭、猫おどり）
- ・ 親子種目 ・ 児童会種目 ・ 園児による競技、表現
- ・ 子供が主体になって創る表現（1～3年・4～6年）





丹那猫おどり



保護者による準備



お年寄り園児も参加



大人VS子供の綱引き





親子種目



たてわり対抗



スローガンの発表



卒業生による放送の手伝い



# 運動会をふり返る掲示物とはがき新聞

2nd Mission  
9月30日  
オール丹那運動会



世界一  
努力の結晶



種目	男子	女子
100m	...	...
200m	...	...
400m	...	...
800m	...	...
1500m	...	...
3000m	...	...
5000m	...	...
10000m	...	...
20000m	...	...
30000m	...	...
40000m	...	...
50000m	...	...
60000m	...	...
70000m	...	...
80000m	...	...
90000m	...	...
100000m	...	...

まるないよ

最高の150周年  
運動会

最高の150周年  
運動会

最高の150周年  
運動会



最高の150周年  
運動会

9月30日に  
運動会があり  
ました。ちよ  
うど、150周年  
だったのだと  
くべつな運動  
会になりました  
た。たくさん  
の地域の人や  
家族の人が来  
ました。玉入  
れでは一回戦  
目も2回戦目  
も勝ちました。  
3回戦目は、  
CS種目でも  
3回戦目も勝  
ちました。う  
れしか、た  
す。個人走で  
はぎりぎり一  
位になりました  
た。負けちゃ  
うかもしれな  
かったのだう  
れしか、た  
す。いつでも  
スマイル♡  
では上手に踊  
ることができ  
ました。とて  
も入場の時キ  
ンちょうしま  
した。細引も  
楽しかったで  
す。赤組勝て  
た。

# (ウ) 自給自足DAY

## ①ねらい

### ◎主体性を高める

- ・ 地域のよさを知る・探究・協働

## ②内容

- ・ ペア学年で栽培作物やメニューの決定
- ・ 栽培時期や方法を調べ、地域の畑博士と相談
- ・ 地域の農家さんによる米作り支援
- ・ 協力して種まき・植え替え・草取り・水やり
- ・ 収穫・調理・会食（園児・携わった方々）
- ・ さつまいもの栽培から焼き芋までの調理





5	献立								
			献立			材料			
	主食	ご飯				米			
	副菜	野菜具たくさん味噌汁				白菜、ジャガイモ、カボチャ			
		焼き芋				サツマイモ			

ご飯、味噌汁は100人分作る。味噌汁は具たくさんにする。

焼き芋は3・4年生が15人が8本ずつ用意し、120個作りたい。

6	栽培作物								
	1年	白菜	サツマイモ	(幼稚園児と)					
	2年	ジャガイモ							
	3年	カボチャ							
	4年	カボチャ							
	5年	ジャガイモ	米						
	6年	白菜							

7	担当料理と活動								
	場所	学校・家庭科室	教室・校庭	体育館	給食室				
	学年	5・6年(22名)	3・4年(15名)	1・2年(18名)	栄養士・調理員				
	担当する料理	味噌汁	焼き芋・おにぎり	会場雰囲気作り	ご飯				
	活動	野菜洗い、皮むき	新聞紙巻き	オブジェ作り	食缶に入れる。				
		野菜切り	アルミホイル巻き	メニュー図解等					
		味付け	おにぎり作り						



栽培活動



収穫体験



調理



発表



# 自給自足DAYに向けた取組の掲示物

1.6年ペア

ハクサイ

幼稚園  
1年

4/2 全校ガイダンス

3.4年ペア

5/23

作物紹介

わたしも  
楽しみです

10/17 代表委員会

2月にはもう  
始まっていた!

2.5年ペア

お米!

みんなの  
できたばいお

大成功

Goal

11/15

地域の



# 自給自足DAYをふり返るはがき新聞

## 行事新聞

11/15

### つながる 食材と 自給自足DAY

私は今年、白菜づくりをがんばりました。虫はとも苦手で見るのもいやだけれどきれいな白菜をつくるため、がまんしました。ネット

をいろうとしたり、休み時間に見にいって何かできないかと考えたりました。その結果、とても大きく花のようになりきれいな白菜ができてうれしかったです。このとき私は白菜と

つながれたような気がしました。みそ汁づくりでは、みんな声をかけ合い、協力することができました。最後で少し悲しいけど楽しかったです。



おいしい。

160K



## ひさしぶり!

今日は、自給自走デーでした。今年、はんとぐとに教室で食べるのではなく、体育館で食べることにしたのでできたの、うれしかった。ひさしぶ

りだなと思いましたが。5年生になり、6年生とみそしるを作ることに、全校が食べることを考えながら、みそしるをつくりました。何度も味見をして味を調整しました。



食べた時は、とってもおいしくできました。と思い、みんなおいしくおいしく、なから食べてくれたうれしかったです。

# (エ) ありがとうの会

①ねらい

◎計画・企画力(高学年)・表現力(低学年)

- ・主体性・互いのよさを認め合う

②内容

- ・1年生による、6年生の紹介  
「○○な△△さんです。」
- ・学習を生かし、感謝の気持ちを表す  
出し物とかざり作り(1～5年生)
- ・これからの丹那小を託す思いを  
表す出し物(6年生)
- ・全校合唱







6年生と対



ありがとう



全校合唱「世界に一つだけの花」



いい学校にしてね



がんばって



# ありがとうの会をふり返る掲示物とはがき新聞

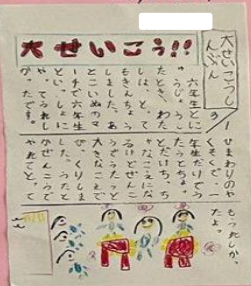


1年生と手をつないで入場!!



1年生が6年生の元気いこうを  
しょうがいしました!

1年生  
歌や合奏  
ありがとう



ファイナルミッション 3月1日(水)  
**ありがとうの会**  
「とどけよう かがやく笑顔の メッセージ」  
感謝の気持ちを心を込めて とどけました。  
どの学年の発表もくみうがつまっていた。  
とってもあたためたでずきな会になりました。  
6年生中学校に行ってもがんばってください。



4年生「タイピングチャレンジ」



4年生の  
圧勝ゲーム  
「おんまのり」

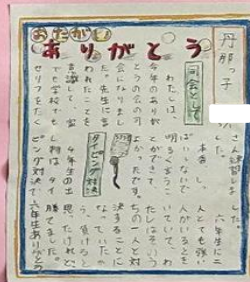
5年生は  
企画から  
運営まで  
りっぱに  
やりとげた。



5年生「ソーラン節  
顔クイズ&合奏」



2年生「かさこじょうのげき」  
じいあさ、ありがとう6年生!!



3年生「Meet.クイズ」  
博士も登場しよ!



6年生「小学校の思い出」  
タイムマシンに乗って  
レッソクオー!!

## イ その他の共有体験

(ア) 全校あそび  
委員会主催の活動

(イ) 全校SST (全4回)

①あいさつ ②聴き方 ③温かい言葉 ④感謝の伝え方

(ウ) ランチルーム給食  
複数の学年がランチルームに  
集まり、給食を食べる





# 地域が一体となった150周年記念式典



## 4 具体的な取組 (仮説Ⅱ)

### (1) 授業づくり (学び方を学ぶ)

- ア 子供とつくる単元のゴール・学習計画
- イ 自己決定・自己選択の機会の確保
- ウ とともに学び合う場の設定
- エ 次につなげる自己評価・ふり返り
- オ 地域探究学習で地域を学び地域へ発信



## ア 子供とつくる単元のゴール・学習計画

①何を学ぶか、  
ゴールを共有する

②どうやって学んでいくか、  
学習計画を共有する



# イ 自己決定・自己選択の機会の確保

## ①何を使うのか

丹那生き物図鑑

→カメラ機能・録音機能・図鑑

マット運動

→NHK for School・動画機能

## ②誰と学ぶのか

(一人・友達・先生)



## ウ ともに学び合う場の設定

①分からない 納得できない

②ずれ (教師の仕掛け)

③協働する場面の設定

(動画機能で撮影して見合う

助言する)

④共同作業



## エ 次につなげる自己評価・ふり返り

① スプレッドシートで  
ふり返りの共有  
(個人・全体を入れたカード)

- ② 教師の価値付け
- ・ 学び方を認める
  - ・ その子の学びを価値付ける
  - ・ なぜ解決できたかを聞く

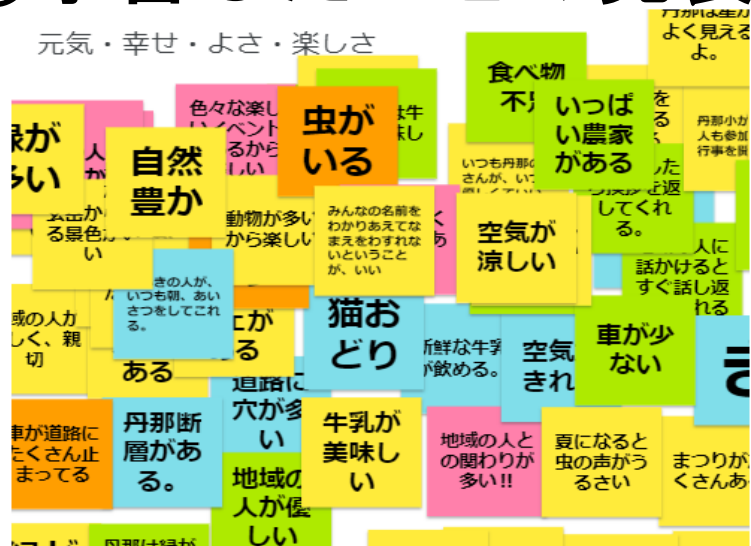
ふりかえり 何ができるようになった？ 自分の学び方はどうだった？ 次の時間はなにを学ぶ？
真分数と整数の解き方が理解出来た。じっくり学ぶことができた。友だちの意見を参考にすることができた。ゆうさんやあかりさんのほうがより正確だとわかった。
74
真分数×整数の式を表で図に表すことができた。また、図を使うことで式についてを知ることができたので問題を解くことができた。
61
真分数×整数を求める式が分かった。練習問題で間違えていたから自分磨き出直したい。
40



# 才 地域探究学習で地域を学び地域へ発信

- ①丹那のまちづくり
- ②地域を巻き込む活動
- ③学習したことの発表

元気・幸せ・よさ・楽しさ



## 4 具体的な取組 (仮説Ⅱ)

### (2) 学級づくり

- ア 子供の居場所づくり
- イ サークル対話
- ウ 心の健康観察
- エ こころのアンケート

## ア 子供の居場所づくり

- (ア) 子供が主体的に取り組む委員会活動
  - 栽培委員会(3年) アルミ缶回収委員会(4年)
  - TDS委員会 (子供の思いを実現する)
  - 児童会 (あいさつ運動)
  - ハッピーライブラリ委員会 (読み聞かせ)
  - グッドヘルシー委員会 (全校遊び)
- (イ) 縦割り班での話合い
  - 学校の約束の見直し・ミッションの内容
- (ウ) 縦割り遊び・全校遊び



# イ サークル対話



月に一度実施。

テーマをもとに、話したり、聞いたりする。

友達の発言を受け止める。

# ウ 心の健康観察

こころについて おしえてください。

こころの ちょうしについて ききます。 \*



週に一度実施。  
自分の心の状態を  
見つめる時間にする。



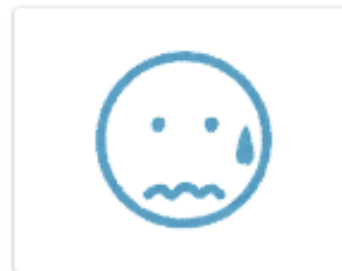
とてもよい



よい



ふつう



わるい



とてもわるい

# エ こころのアンケート

## こころのアンケート

がっこうや おうちでの せいかつで、こまっていることが あったら おしえてください。

しんばいなことや なやんでいること、ふあんなことなど、どんなことでも かまいません。

また、こまっている 人が いることを みたり きいたり したときも おしえてください。

ここに かいたことは、あなたが きいてほしい ひと だけに つたわります。

**いつでも回答可能。**

**誰かに相談することを苦手としている子も  
書くことができる。**

**職員がすぐに対応することができる。**



## 4 成果と課題

R5学校評価アンケートより

- ・ふるさとのよさを知っている。(A評価)  
前期48.2%→後期50.9%
- ・栽培活動や地域学習は自分にとって役に立っている。(A評価)  
前期55.4%→後期56.4%



- ダイヤランド（函南町外からの移住）の子の割合が大きくなっている中、郷土を大切にしようとする子の割合は少しずつ増加している。
- 地域とのつながりを継続していることで、高評価を保つことができている。

## R5地域探究学習振り返りコメントより

- ・とても楽しかったし、地域のことも知ることができた。これからも丹那を大切にしたい。（3年）
- ・くろたけ学習は、自分の調べた丹那のもの(こと)について詳しくわかったし、調べてまとめる力もついたから学習能力がアップしたと思う。（4年）
- ・オラッチェの魅力をたくさん調べていった中で、自分も詳しいことは知らなかったけれど、見学させてもらったおかげで詳しいところまで知ることができてよかった。来年もたくさん調べたい。（5年）

○地域探究学習を進める中で、見学に行ったり、インタビューに答えてもらったりするなど、地域の人とのつながりを増やしたことで、地域の人・もの・ことを大切にしようと考えている子供が多くなった。



## R5学校評価アンケートより

- ・ 授業中、学習に自分から取り組んでいる。(A評価)  
前期69.1%→後期65.5% (CD評価が0人に)
- ・ 授業中、友達の考えを自分の学びに生かしている。(A評価)  
前期60.0%→後期61.8%

- よりよい人間関係の中で学習を進めることができるようになり、主体的に学ぶ姿が増えてきている。また、協働的な学びのよさや必要性を感じ積極的に友達との交流を行っている。
- 学び方を学ぶことにより、指導者主導の授業から、学習者主体の授業に変容しつつある。

△高学年においては、固定化された人間関係が解消されず、一部の人としか交流しない子供もいる。学級づくりと授業づくりの両輪が大切である。



ありがとうございました。



## 1 主題設定の理由

本校は、静岡市初の3小学校1中学校が統合した施設一体型の小中一貫校として、令和4年4月に開校した。静岡市の児童生徒は、令和10年までに約8500人が減少し、5学級以下の過小規模校の増加が予想される<sup>\*1</sup>。静岡市においては今後も複数の統廃合計画が進められており、該当校による本校の視察も何度か行われた。

本研究では、開校後2年間の取組について、学校評価等から教職員や児童生徒、保護者の意識を分析することで、今後の統廃合を迎える学校、施設一体型小中一貫校に対し、学校づくりの一例として発信したい。

## 2 研究の概要

本校では、開校にあたって設定された学校教育目標「ふるさと両河内に誇りをもち、豊かに表現できるたくましい子」の実現に向けて、6つの力「コミュニケーション力」「表現力」「主体性・参画力」「ふるさとへの誇り」「ICT活用力」「英語力」の育成を目指している。それらの育成における教育課程、生徒指導、研修、特別活動の軸となる取組について実践報告する。また、2つの視点「ふるさとに誇りをもち」、「表現力を身に付ける」に焦点を当て、教職員、子ども、保護者の学校評価を分析し、これからの学校づくりのあり方を考察する。

## 3 研究の実際

### （1）教育課程の編成

児童生徒の実態に基づき、学校教育目標の実現を目指して編成している。特に重点を置く取組は、以下の通りである。

- ①校種を問わず全職員での全児童生徒への9年間を見通した生徒指導（生活指導、学習指導、特活指導、教育相談）の実施。
- ②児童生徒一人一人の丁寧な見取りと、振り返りの場面を通しての、個ならびに集団の成長の評価。
- ③地域人材、地域教材を活用した、ディスカバー両河内（生活科、総合的な学習の時間）の時間の運用。
- ④9年間の発達段階に応じたコミュニケーション力の育成。

### （2）生徒指導の取組—こころづくり部—

学校生活を安全・安心に過ごすことを目的に校内外で指導にあたっている。

具体的には、校則を見直し、話し合う場を設けた。統合する際には、小学生と中学生の校則を統一せず、発達段階に合わせてそれぞれのきまりを決めていた。しかし、校則に対してのとらえ方に個人差が生まれてきたため、どのように考え、感じているかなど、現在の気持ちを出し合う場を設けた。子ども達からは、服装や持ち物、生活の様子などについて様々な考えが出され、自分とは異なる価

値観に触れ、より考えを深める機会となった。

### （３）研修の取組—まなびづくり部—

研修テーマ「豊かな表現力につながる確かな基礎学力の育成」の実現に向けて、校内研修推進、学力向上、ICT活用の推進を軸として活動している。

#### ①小中の教職員が学習サポート

小中の垣根なく教員が授業支援を行っている。授業支援が必要な場合には、職員室に掲示してある週報に印をつけるようにすることで周知し、より充実した支援につなげている。

また、個別支援だけでなく、実態把握や指導方法の共有、9年間を見通した指導の視点をもつことなどについても、日常的な研修に取り組んでいる。

#### ②チャレンジタイムとチャレンジテスト

基礎学力の定着を目的に、チャレンジタイムとチャレンジテストを全校実施している。

チャレンジタイムは、毎週金曜日の朝の時間に設定し、児童生徒は計算をはじめとした練習プリントやドリル学習に取り組む。

チャレンジテストは年間6～9回実施。事前に範囲が示され、漢字、計算、英語などの基礎的な問題をチャレンジタイムや家庭学習で繰り返し練習している。

これらの取組によって、児童生徒が主体的に学習内容を考え、選択する力を育成することができ、習慣化された。

#### ③ICT活用

日々の授業、集会のオンライン化に加え、Googleのアプリを活用して委員会活動の情報

共有、伝達、可視化を行っている。

異学年間で情報を伝える際には、相手に応じて内容が伝わるように言葉、図、写真など表現を工夫してスライドを作っている。

#### （４）特別活動の取組—なかまづくり部—

小中をつなぎ、コミュニケーション力の育成をするために縦割り活動や全校活動に取り組んでいる。

#### ①児童生徒会活動

中学部の会長、副会長、事務局、各委員会委員長、小学部の副会長、副委員長を中心に、1年生から9年生の全員で活動している。全児童生徒が活動への所属感をもてるように、4つの縦割りグループ（25人程度）及び8つの縦割りグループ（12人程度）を構成している。

中学生が司会として進行する企画と、小学生が進行する企画がある。行事だけではなく、全校で遊ぶことは常時行われ、日頃から異学年の関わりがあることで、小中隔てなく活動することができている。

#### ②English Day

英語の授業以外で児童生徒が英語に接する機会の拡充を目的に、アルファベット並べ競争、インタビュー、クロスワードパズル、日本の学校とアメリカの学校の違いについてのクイズ大会、ハロウィーンクイズラリー、クリスマスツリーの作成などを縦割りで活動している。低学年から外国語に触れ、交流することを通して、コミュニケーション力を身に付けることができる。

#### ③音楽集会「両河内フェス」

「ふるさと～大切なものを探して～」をテ



ーマとして、ミュージカル風の発表を行った。大切なものを探す子どもたちが、各学年団で演奏、聴くことを通して、ふるさと両河内の地域、自然、仲間が大切なことだと気づくというストーリーを展開した。全校で一緒に舞台を作ることで、学び合う仲間という集団意識が高まるだけでなく、ふるさと両河内について考えることができた。

#### ④体育祭

「一丸となって 励まし合い 最後まで輝き合おう 本気（マジ）で！」をスローガンに取り組んだ。

全校での校歌ダンスでは、中学生が踊りの振り付けを考え、2年間で2番まで完成した。小中で動きの違いなどを工夫し、表現力を身に付けた。

全校種目は、児童生徒会が企画し、運営する。小学生が中学生種目の道具の準備に関わることで、体育祭の運営に関わっている意識をもつことができた。

#### ⑤総合的な学習「ディスカバー両河内」

地域の人・ものを材として、直接体験を大切にしている。

5月には、全校で茶摘みを行っている。事前に、8年生が中心となってお茶の摘み方について情報を収集し、全児童生徒に伝える場を設けている。実際の茶摘みを通して、大変さややりがいについて感じたことを振り返り、両河内のよさやお茶の栽培に携わる人の思いに気付けるようにしている。採れたお茶は、地域の祭りであるフェスタ両河内で販売したり、交流のある南相馬市立小高中学校へ送ったりしている。

それ以外にも、両河内の福祉や防災、産業といった各学年のテーマに沿って活動が始まり、ふるさとへの誇りを育てている。

## 4 研究の成果と課題

### ①成果

- ・各教育活動が学校教育目標に向けて行われていることを確認することができた。
- ・地域の人・ものに対し、直接体験を基本とすることで、ふるさとのよさについて理解し、肯定感を高めることができた。
- ・異学年が関わる機会を設定することで、コミュニケーションを図り、表現する力が身に付いた。
- ・常時活動に加え、各行事で目標を共有することにより、小中で一体感をもって練習に取り組み、進んで協働するといった「たくましい姿」が見られるようになった。

### ②課題

- ・各活動が重なることにより、教育課程上の負担が大きくなることがあった。子どもの姿や職員の声をもとに、定期的に各行事のあり方や開催時期などを見直していく必要がある。
- ・児童生徒が一体感を得られる場として、特別活動や総合的な学習だけでなく、教科の学習においても実現できないかを模索していきたい。

(参考資料)

- ※1 静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針の改定〈概要版〉 2023年、静岡市教育委員会

## 小規模校教育研究部

学校教育目標「ゆめをもって生き生きと学ぶ子」を地域に示す  
～小規模校ならではの、地域とのつながりを深める活動～

文責者 小長谷 茂樹（富士宮市立稲子小学校）

### I はじめに

本校は富士宮市の西端、車で10分移動すれば山梨県南部町にたどり着くところに位置している。学校のすぐ東側には稲子川（富士川の支流）が流れ、近くには天然温泉施設ユー・トリオがある。夏には多くの家族連れが川遊びに訪れている。

令和6年度の稲子小は3年生2名、4年生3名の複式学級、6年生4名の単学級、計9名、2学級の過小規模校である。市からは「富士宮市立学校の適正規模・適正配置に関する基本方針」が示されていて、そこには複式学級を可能な限り解消することが記載されているが、地域住民からは稲子小の存続を望む声が多い。

そのような地域に対して、学校としてできることは、在籍している児童が学校生活を楽しむ姿（これは学校教育目標「ゆめをもって生き生きと学ぶ子」に通ずる）を地域に示していくことだということ共有し、職員一丸となって地域と共にある学校を目指している。小規模校ならではの、地域とのつながりを深めている実践を報告する。

### II 研究実践

#### 1 稲子カレンダーの作成

稲子カレンダーは稲子小児童が毎年作成している版画印刷の12ページのカレンダーで、地域やお世話になった方々に配布している。昭和59年から40年近く作られ続けており、このカレンダーが届くのを楽しみにしている方も多い。

#### 5月 カレンダーのテーマ決め

児童がカレンダーのテーマについて話し合う。「草花」「動物」「川の生き物」「歴史」等、稲子に関連するものからテーマを決定する。さらに各月の図案や、どの月をどの児童が担当するかを決定する。

#### 6月～8月 版画彫り

3年生以上は彫刻刀を使って木版画を作り、1・2年生はスチレン版画を作る。今年度は児童数9名であることから、令和7年用カレンダーの

作成には地域の方にも協力をいただいた。地域の回覧板で募集したところ、複数の方が協力を申し出てくれた。中には「もう何十年も前だけど、自分が稲子小の児童の時にもやったので。」と、進んで協力してくれた方もいた。

#### 9月 試し刷りと彫り直し

試し刷りをすると、絵や数字が鮮明でない部分がある。鮮明でない部分は改善すべく、さらに広く、深く彫り進めていく。

#### 10月 版画印刷

彫り直しをした版木を用いて体育館で印刷する。児童、保護者、職員が力を合わせて作業に取り組む。印刷した紙は、乾燥のために体育館フロア全面に並べる。1週間後、十分乾燥したところで月の順に丁合する。



乾燥を終えたカレンダーを手に笑顔の児童(令和5年度)

#### 11月 版画綴じ

丁合したカレンダーの上辺を、縦二つ割りにした竹の棒ではさみ、針と糸を使って綴じる。竹の棒は、地域の方が毎年、所有している竹林から伐採して寄付してくださっている。

#### 12月 近隣世帯、各施設へ配布

完成した稲子カレンダーは、児童が直接持参して近隣世帯に届けている。地域の方からは「毎年楽しみにしているよ。ありがとう。」と声を掛けていただいている。児童が達成感を感じる瞬間である。また、市役所や上稲子区、下稲子区の区民館、近隣小中学校にも届けている。市長室や教育長室にも飾っていただいている。他にも過年度に

お世話になった先生方、出前講座で稲子小に来て下さった講師の方等にお礼としてお配りしている。

## 2 地域と学校の合同運動会

毎年秋に、上稲子区、下稲子区と稲子小学校が合同で運動会を開催している。学校主催ではないため、保護者や地域の意見を十分に聞き、学校と保護者・地域の思いを調整することが重要である。

### 3月 次年度運動会の種目等概略確認

秋に実施した運動会を通して寄せられた児童、職員、保護者、地域住民の感想や意見をまとめ、教育課程編成会議において次年度の運動会の種目等について話し合い、概略を確認して次年度に引き継ぐ。

### 6月 種目、プログラムの立案

3月の確認事項を反映させたプログラムを職員で立案した。各種目の担当職員も決定し、種目のルール作成、演技図の作成に取りかかり始めた。

### 8月下旬 プログラム、演技図の完成

### 9月 PTA役員会、運動会実行委員会の実施

作成したプログラムや演技図をPTA役員会で協議にかけ、さらに上稲子区、下稲子区の区長、老人会長、婦人会長も交えた実行委員会を行った。

### 10月 運動会の実施

学校単独の運動会であった場合、参加者数は児童、保護者、職員合わせても30名程度にしかないが、地域の方も参加してくれることで、100名に達している。一年で最も稲子小が賑わう日でもある。児童はもちろん、保護者、未就学児からお年寄りに至るまで、地域住民が一緒になって笑顔で活動できるこの行事は今後も大切にしていきたい。



児童と地域住民が一緒になって玉入れ(令和5年度)

## 3 地域交流会の実施

6月と11月の年2回、地域交流会と称して地区の老人会（上稲子：いきいきクラブ、下稲子：シニアクラブ）と児童・職員のグランドゴルフ交流会を実施している。毎週土曜日に上稲子のクラ

ブがグランドゴルフ会場として学校のグラウンドを利用しているため、コース設定は不自由しない。

当日は、児童・職員に敬老会員を合わせて40名ほどで開催される。40名が8組に分けられ、1組に児童1名、職員1名、敬老会員3名程度が割り振られる。児童は組の中でひとりぼっちになることが多いが、それが敬老会員の方々と交流する良い機会となっている。球を打つときの構えを教えてもらったり、良い打球となったときに「ナイスショット！」と声をかけてもらったりすることは、日頃の狭い人間関係の中で生活している児童にとっては貴重な経験となっている。



アドバイスをもらってパットに挑戦(令和6年度)

グランドゴルフの後には授業を公開し、参観してもらっている。グランドゴルフの時に見せる表情とは違う一面を見ることができるので、お年寄りから好評をいただいている。

## III 成果と課題

### 成果

どの行事においても感じることは、地域の方々には学校や児童を地域の宝ととらえ、大切にしてくれるということである。地域の方々の愛情を受け、児童は学校評価において次のように回答している。  
・ぼく・わたしは、学校に楽しくかよっている。

【肯定的評価 R5100%、R6100%】

・わたしは、友達や地域の人、先生に進んで関わろうとしている。 【肯定的評価 R5100%、R6100%】

### 課題

地域の、児童や学校を大切にしたい気持ちに比例して、学校への願いや期待も高まる。例えば運動会はコロナ禍以降、半日開催で実施してきたが、ここに来て1日開催や万国旗を飾ることを望む声がかかる。職員の働き方に大きな負担となることは避けつつ、地域の声にも十分耳を傾け、実施の可能性を検討することが必要となっている。



- 1 研究主題 『主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成』  
～児童生徒一人一人が他者とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす  
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

2 日 時 令和6年11月14日（木）～11月15日（金）2日間

- 3 会 場 1日目 全体会：福井県民ホール  
2日目 第1分科会：福井市国見小学校／  
第2福井市国見中学校  
第3若狭町立梅の里小学校

#### 4 日 程

##### 【1日目：全体会】

- (1) 開会行事  
(2) 基調報告/  
研究発表（愛知：西尾市立佐久島しおさい学校）（岐阜：中津川市立加古母中学校）  
（三重：紀北町立三浦小学校）  
(2) 記念講演 演題「キャリア教育を生かしての学校と地域との連携と協働」  
講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
東北福祉大学 教育学部 教育学科教授 長田 徹 氏  
(3) 閉会行事

##### 【2日目：分科会】

- \*第3分科会「若狭町立梅の里小学校」に参加  
(1) 公開授業  
(2) 研究発表・助言指導・グループ協議 等  
(3) 閉会行事

#### 4 感想等

##### 1, 全体会（1日目）

・小規模校のある地域だからこそ、学校を取り巻く人々の温かさに支えられたり、少人数だからこそ小回りがきき、できることが多いということだったり、マイナスではなくプラスと捉えながら、様々な実践を楽しみながら行っていることが印象的であった。

・基調講演からは、地域との関わりは「連携」から「協働」へとシフトしていくことが大切であり、キャリア教育を教育活動で位置付けながら、活動の中で自己有用感を感じ、自己肯定感が醸成されるということを他県の取組からわかりやすく教えていただいた。ペアワークなどを通して、今後必要な取組であるということを実感を伴って理解することができた。

##### 2, 分科会

・ICTを活用しながら学びを深める工夫があり、子どもたちが生き生きと授業を行っていた。

・個の見取りを生かし、学びを深めていくことについては課題を感じた。

- 1 研究主題 『主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成』  
～児童生徒一人一人が他者とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす  
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

2 日 時 令和6年11月14日（木）～11月15日（金）2日間

- 3 会 場 1日目 全体会：福井県民ホール  
2日目 第1分科会：福井市国見小学校／  
第2福井市国見中学校  
第3若狭町立梅の里小学校

#### 4 日 程

##### 【1日目：全体会】

- (3) 開会行事  
(4) 基調報告/  
研究発表（愛知：西尾市立佐久島しおさい学校）（岐阜：中津川市立加古母中学校）  
（三重：紀北町立三浦小学校）  
(2) 記念講演 演題「キャリア教育を生かしての学校と地域との連携と協働」  
講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
東北福祉大学 教育学部 教育学科教授 長田 徹 氏  
(3) 閉会行事

##### 【2日目：分科会】

- 第1分科会「福井市国見小学校」に参加  
(4) 公開授業  
(5) 研究発表・助言指導・グループ協議 等  
(6) 閉会行事

#### 4 感想等

文科省教科調査官の長田氏の記念講演では、「一生懸命に地域に尽くす大人の姿を見せてほしい。本物に出会わせてほしい」「子どもたち自身が誰かのためになることを味わわせてほしい」という言葉が印象に残った。これらの言葉は故郷への誇りと愛着をもつ子どもたちを育てるヒントとなった。福井市国見小学校は複式3学級、全校児童が28名の学校で、「主体的に学ぶ子の育成」を研究主題として取り組んでいた。地域の素材（人、もの、こと）のつながりを視点としながら、ICTを巧みに活用して学習課題を解決していく授業を参観することができた。一方で小規模校ならではの素直さをもつ子どもたちであるがために、教員の関わり方、支援の仕方で大きく育ちや学びが左右されてしまうことを参観から感じた。主体性を伸ばすためには、まずは教員相互の教育観や子ども観、授業観などの「観」の共有が何より大切であると感じた。

- 1 研究主題 『主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成』  
～児童生徒一人一人が他者とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす  
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

2 日 時 令和6年11月14日（木）～11月15日（金）2日間

- 3 会 場 1日目 全体会：福井県民ホール  
2日目 第1分科会：福井市国見小学校／  
第2分科会：福井市国見中学校  
第3分科会：若狭町立梅の里小学校

#### 4 日 程

##### 【1日目：全体会】

- (5) 開会行事  
(6) 基調報告/  
研究発表（愛知：西尾市立佐久島しおさい学校）（岐阜：中津川市立加古母中学校）  
（三重：紀北町立三浦小学校）  
(3) 記念講演 演題「キャリア教育を生かしての学校と地域との連携と協働」  
講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
東北福祉大学 教育学部 教育学科教授 長田 徹 氏  
(4) 閉会行事

##### 【2日目：分科会】

- \*第1分科会「福井市立国見小学校」に参加  
(7) 公開授業  
(8) 研究発表・助言指導・グループ協議 等  
(9) 閉会行事

#### 4 感想等

1日目は、記念講演を通して、日本の子供たちの強み（＝学力の高さ）や弱み（＝自己肯定感の低さ、学習したことと社会との関連を感じていない）を再確認することができた。また、学校で学んでいることと社会生活とのつながりを見せることは教師の一つの役割であることを感じた。子どもたちが学ぶことへの意味を感じ、「知りたい!」「できるようになりたい!」という思いを持って、主体的に学ぶことができるように支援をしていかなければならない。

2日目のグループ協議では、「たくさんの人の前で堂々と話すことができない」ことは小規模校の課題であるという意見が挙がった。小規模校であるからこそ、全校の前で発表したり、発言したりする機会を意図的に設定することができる。できるだけ多くの児童生徒に機会を設定し、表現力を伸ばしたい。また、地域の人とつながりやすいことは、小規模校のよさであるという意見が挙がった。引き続き、へき地・複式・小規模校のメリットを生かし、ふるさとへの誇りと愛着を持った子供を育成していきたい。



- 1 研究主題 『主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成』  
～児童生徒一人一人が他者とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす  
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

2 日 時 令和6年11月14日（木）～11月15日（金）2日間

- 3 会 場 1日目 全体会：福井県民ホール  
2日目 第1分科会：福井市国見小学校／  
第2福井市国見中学校  
第3若狭町立梅の里小学校

#### 4 日 程

##### 【1日目：全体会】

- (7) 開会行事  
(8) 基調報告/  
研究発表（愛知：西尾市立佐久島しおさい学校）（岐阜：中津川市立加古母中学校）  
（三重：紀北町立三浦小学校）  
(2) 記念講演 演題「キャリア教育を生かしての学校と地域との連携と協働」  
講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
東北福祉大学 教育学部 教育学科教授 長田 徹 氏  
(3) 閉会行事

##### 【2日目：分科会】

- \*第3分科会「若狭町立梅の里学校」に参加  
(10) 公開授業  
(11) 研究発表・助言指導・グループ協議 等  
(12) 閉会行事

#### 4 感想等

長田徹氏による講演会は、総合的な学習や生活科で地域の人とのかかわりを通して、地域の誇りをもたせることで自己肯定感が上がり、学んだことを活かすことで学びを実感できるという貴重な内容だった。本校も地域とのかかわりが深いので、生かせる部分があるので参考にしたい。

若狭町立梅の里小学校の研究発表会では、「主体的に課題を解決しようとする子の育成」を研究テーマにして、「梅の里スタイルを意識した、学び合いの授業作り」「ICTを活用した、子供どうしがつながる場の設定」の2つの取り組みによる公開授業が催された。子供が主体的に学ぶための手立てが分かりやすく、小規模校である本校においても生かせる研修内容であった。

- 1 研究主題 『主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成』  
～児童生徒一人一人が他者とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす  
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

2 日 時 令和6年11月14日（木）～11月15日（金）2日間

- 3 会 場 1日目 全体会：福井県民ホール  
2日目 第1分科会：福井市国見小学校／  
第2福井市国見中学校  
第3若狭町立梅の里小学校

4 日 程

【1日目：全体会】

(9) 開会行事

(10) 基調報告／

研究発表（愛知：西尾市立佐久島しおさい学校）（岐阜：中津川市立加古母中学校）  
（三重：紀北町立三浦小学校）

(2) 記念講演 演題「キャリア教育を生かしての学校と地域との連携と協働」

講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
東北福祉大学 教育学部 教育学科教授 長田 徹 氏

(3) 閉会行事

【2日目：分科会】

\*第1分科会「福井市立国見小学校」に参加

(13) 公開授業

(14) 研究発表・助言指導・グループ協議 等

(15) 閉会行事

4 感想等

基調報告では、小規模校、へき地校だからこそできる教育の在り方をそれぞれの地域の環境や児童の実態に合わせた魅力ある取り組みが紹介された。中でも、愛知佐久島の学校では、義務教育学校の特認校として、児童の数を確保しつつ、協働的な学びの充実を外国語活動を窓口に展開していた。

記念講演では、学習指導要領前文からキャリア教育を生かして学校と地域との連携と協働についてその必要性や、児童の学びを支えるのは、学校関係者や家庭や地域、様々な立場から学校教育に関わる全ての大人に期待されていることを、近くの先生方との情報交換を交える中で、子どもからの問いに答えるという形をロールプレイングしながら意見交換し確認した。

分科会では、国見小学校の研修での取り組みについて、個別最適な学習や協働的な学習、深い学びから子供が主体的に学ぶ姿の在り方などについて、学ばせていただいたが、授業を拝見させていただく中で、その考えを生かして授業に反映させることの難しさを痛感した。

本校は、静岡県静岡市の北部に位置し、市街地より40分ほどの風光明媚な場所にある。県下有数の美林を有し、農業（お茶・椎茸・わさび等）が主な産業である。学区には安倍川の支流である中河内川と西河内川が流れており、1年を通して河原でキャンプを楽しむ様子が見られる。本校は、令和2年4月1日より施設一体型の小中一貫校としてスタートし、今年度で5年目を迎えた。現在の児童・生徒数は小学部11名、中学部9名、合計20名である。本校に在籍している児童・生徒の中には、いわゆる地元の子は少ない。玉川の美しい自然環境の中でのびのびと子育てをしたいと考え、この地に移住してきた家庭の子供や、小規模特認校制度を利用して学区外から通学してきている家庭の子供が半数以上を占めている。

本校は、静岡市内の中学校で唯一のユネスコスクール加盟校であり、教育活動の柱の1つにESD活動の推進を掲げている。具体的な活動としては、個別テーマによる探究学習、玉川太鼓、玉川茶生産である。

### 1 個別テーマによる探究学習について

小学部1, 2年生の児童は生活科の中で、3年生以上の児童と中学部の生徒は総合的な学習の時間の中で探求学習を行っている。探究学習に関する学年ごとの大きなテーマが以下のように決まっており、その中で更に自分が追究したい内容を決めて学習を深めていく。

小学部	1, 2年生：学区内にあるお店や施設	3年生：地域や学校の特色（お茶を含む）
	4年生：福祉	5年生：環境
	6年生：キャリア	
中学部	1年生：玉川に関連した内容	2, 3年生：自分の調べたいテーマ

### 2 玉川太鼓について

平成11年から現在に至るまで本校の伝統として受け継がれてきている。当時は中学校が地域を元気づけたいということで始まった玉川太鼓だが、今では児童・生徒数の減少もあって小学生も演奏に参加している。毎年、保護者や地域の皆さんに対して3回程度発表会を開いて練習の成果を披露している。子供たちは3回の演奏発表会を通じて、自分の演奏はもちろん集団の演奏レベルも少しでも上げようと練習に一生懸命取り組む姿が見られる。



### 3 玉川茶生産について

本校では、玉川地区の代表的な産業の1つである「お茶」について学ぶ機会を設けている。グラウンド横には、あまり大きくないが学校の茶畑があり、毎年「施肥」や「茶摘み」などを全校児童・生徒で行っている。今年は、学区内にある茶工場のご厚意で、摘んだ茶葉を蒸して冷凍保管し、10月下旬頃に全校児童・生徒で手揉み体験をする予定である。

今後、児童・生徒数が減少していく中であるが、現在行っている活動も実態に合わせて見直しをしながら、山間地ならではの特色ある活動を今後も継続して行っていきたい。



## 事務室より

川根本町立光の森学園  
事務主任 長嶋 明穂

川根本町は、静岡県の中央、榛原郡の北端に位置し、南北に細長い形で、北は赤石山脈を背負い、長野県との県境となっています。大井川の両岸に点在する集落からなる地域であり、本校学区は、その北部に位置しています。

令和5年まで川根本町には小学校2校と中学校2校がありましたが、3月末に4校とも閉校し、令和6年4月に2校の義務教育学校が開校しました。私が所属している光の森学園は、川根本町立本川根小学校と川根本町立本川根中学校が統合した義務教育学校です。もと本川根小学校を校舎とし、児童生徒61人の子供たちが学校生活を送っています。複式学級がある小規模校ですが、昼休みには学年の隔たりを感じることなくグラウンドで元気に遊ぶ姿が見られます。

4月の開校セレモニーでは、児童生徒や教職員の手形スタンプを葉っぱに見立てた木を製作しました。このイベントでは子供たちが中心となり企画と運営を行いました。保護者や地域の方々も参加し、たくさんの手形が押され、地域の方と学校とで記念作品を創ることができ、光の森学園という名前にふさわしい、光り輝いたセレモニーとなりました。

5月には1年生から6年生が行うチャレンジスクールという行事があり、その中でカレーコンテストが開催されました。児童が決められた予算の中で材料や買い物ルートを考え、オリジナルカレーを作りました。星形のパプリカや隠し味にバナナやはちみつ等、大人では考えつかないようなアイデアがたくさん盛り込まれたカレーは、7、8、9年生と教職員にも振る舞われ、試食と投票が行われました。全校の児童生徒で楽しむことができました。私もとても楽しそうな児童生徒の笑顔を見ることができ、経理面でのサポートができて良かったと思いました。

名は体を表すといいますが、光の森学園は校名のとおり、児童生徒が光り輝き自然の中でお互いを高め合っている学校です。これからも児童生徒や教職員、地域の方にとって身近に感じられる学校でありたいと思います。そんな学校の一員として、きらきらと輝く児童生徒の笑顔や活動を事務室から見守っていきたいです。

